



十六銀行

十六アジアレポート 2019年4月号

JUROKU ASIA REPORT APRIL 2019

2019年4月1日 発行

十六銀行 法人営業部 海外サポート室

目次

1. 上海:「チャイナビジネスセミナー&交流会 in 上海 2019」 上海駐在員事務所 浅野耕示
2. シンガポール:「カフェ・アジア 2019」 シンガポール駐在員事務所 富田邦裕
3. ベトナム:「北部最大の港町『ハイフォン市』に注目」 ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之
4. タイ:「民政移管への総選挙」 カシコン銀行 ジャパンデスク 吉田昌平
5. インドネシア:「MRT開業へ」 バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人
6. 為替相場情報

本書中の情報は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては全てお客様御自身でご判断くださいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行及び執筆者はその正確性を保証するものではありません。また、本書中の情報は、法律上、会計上、税務上の助言を含むものではありません。法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談ください。

1. 上海:「チャイナビジネスセミナー&交流会 in 上海 2019」

上海駐在員事務所 浅野耕示

3月14日(木)に「チャイナビジネスセミナー&交流会 in 上海 2019」を、当行を含む地方銀行4行で開催しました。今回は、このイベントの様子をご紹介します。

■上海に拠点を有する地方銀行4行の協力により開催

今回のイベントは当行の他、きらぼし銀行(東京都)、滋賀銀行(滋賀県)、中国銀行(岡山県)の4行により開催致しました。各行のお取引先のうち、上海近郊に拠点を持たれているお取引先を中心に合計76社、96名(うち当行お取引先は23社28名)の方にご参加頂きました。

各行のお取引先は上海を中心とした華東地域に数多く進出されています。今回のイベントは、日本全国の各地銀のお取引先に効率的な情報収集・交流を行って頂く機会と考え、各行が協力して開催したもので、当行は今回で5回目の共催となります。

■第1部セミナー、第2部名刺交換会・交流会の二部構成

第1部では、全中国、香港の日系企業に関連する市場調査・新規進出・統合・再編・撤退・不正調査などの分野でコンサルティング業務を行うデロイト中国のおおまや たかひろ大庭隆啓氏による「中国における最近の企業経営トラブル事例」と題したセミナーを開催しました。

第2部では、交流会と並行して名刺交換会も開催しました。事前に名刺交換を行いたい相手企業を参加企業にお伺いしたうえで、1対1で名刺交換を行うスケジュールを組ませて頂きました。



【セミナーの様子】

■所感

近時では「より多くの企業と接点を持つ機会」や「参加者にとって事前準備や日程上の負担が少ない企画」へのニーズが増えているように感じており、今回のイベントはこうしたニーズを満たすことが、コンセプトの根幹にあります。

当行では、今回のような日系企業同士のイベントのほか、上海、広州、大連での中国企業も絡めた商談会や上海市浦東新区の当行上海駐在員事務所での勉強会など、海外ビジネスに取組まれるお客さまに役立つ様々な企画を計画していく予定です。積極的にご参加賜りますようお願い申し上げます。



【交流会の様子】

2. シンガポール:「カフェ・アジア 2019」

シンガポール駐在員事務所 富田邦裕

3月21日より3日間開催された国際展示会「カフェ・アジア 2019」。サンズ・エキスポ・アンド・コンベンションセンターで行われました。今年は同会場で「レストラン・アジア 2019」が初開催されており、コーヒー関連のみならず外食産業関連も加わったことから、出展企業は28カ国地域から約250社の規模となりました。今回は展示会場の様子をお伝えしたいと思います。

コーヒー関連の展示会場では多岐に渡るコーヒー生豆や業務用マシンの紹介のほか、バリスタやラテアートコンテスト（写真①）も行われました。外食産業関連では新しい食材や調理方法の導入などが紹介され、製麺会社のブースでは自社製の製麺機を使って日本のラーメンが作られていました。周辺国の大使が試食する場面が見られたほか、域内のバイヤーの行列もでき、人気の高さが窺えました。



シンガポールではコーヒーのことをコピと言い、1杯110円程度です。メニューは独特（写真②）でブラックコーヒーはコピオコソソと注文します。味も日本とは違い、甘さの調整など細かなオーダーをしている人も多く、まさにコピの文化が根付いています。最近では欧米系カフェチェーンの存在感が高まり、クオリティの高いコーヒーへの需要が拡大していることから本展示会は重要な機会です。

COLD BEVERAGE			
Ice Kopi O Kosong	\$1.40	Ice Milo O	\$1.70
Ice Kopi O	\$1.50	Ice Milo Su Su	\$1.80
Ice Kopi Su Su	\$1.60	Ice Milo Si	\$1.90
Ice Kopi Si	\$1.80	Ice (Small Cup)	\$0.20
Ice Teh O Kosong	\$1.40	Ice (Big Cup)	\$0.30
Ice Teh O	\$1.50	Bandung	\$1.70
Ice Teh Su Su	\$1.60	Barley	\$1.70
Ice Teh Si	\$1.80	Lime Juice	\$1.80
Ice Milo O Kosong	\$1.60	Bottled Water	\$1.50

一方でカフェやレストラン等の飲食店は人手不足が深刻な状況です。少子高齢化とシンガポール人を優先する政府の外国人労働者制限の政策が背景にあります。そこで飲食店は生産性向上策に取り組んでおり、人手の機械化を進めております。今回の展示会では受付から注文、支払に際し省人化を提案するブース（写真③）が多く見られました。



当行はシンガポール企業で製菓材料商社の出展ブース（写真④）に2日間お世話になりました。同社はシンガポール内に直営店12店舗を有し、高品質なブランド品を扱っています。会場ではパティシエがスイーツデコレーションを実演し、多くの来場者が試食を行いました。これとは別に日本製の飲料も提供されましたが、試飲したバイヤーや一般来場者から高評価の声が聞かれました。付加価値として、健康・機能性・使いやすさ・時短消費があり、商品の価値が高いと認められた様です。自然と売れる時代は過ぎ去り、消費者の求めるニーズは高くなっていると実感しました。シンガポールの市場は小さいですが、この国には周辺各国から人が集まってくるため、商品力が認められれば波及効果はとて大きいものがあります。日本製に対する人気は継続しており、大変嬉しく思いました。



3. ベトナム:「北部最大の港町『ハイフォン市』に注目」

ハノイ駐在員事務所 川瀬寛之

貿易を経済の成長エンジンとするベトナムでは、港湾都市の大規模インフラ開発が急ピッチで進んでいます。特に、ベトナム北部最大の玄関口である「ハイフォン市」では、国際深水港や高速道路、海上橋のほか、ホテルや商業施設などの建設が相次ぎ、外資企業誘致に向けた環境が整いつつあります。



(写真提供) ディープシー (DEEP C) 工業団地

ハイフォン市における 2018 年の経済成長率は、国平均の 2 倍以上となる 16.3%で推移し、ハノイ市 (7.1%) やホーチミン市 (7.8%) をも上回っています。ベトナム初の国産車 (VinFast) の生産開始に伴う諸外国からの投資や、韓国 LG グループによるスマホ関連機器の生産拡大などが寄与しています。

ハイフォン経済区管理委員会によれば、同市における 2018 年度の外国直接投資額は 23 億ドル (新規投資 65 件、増資 38 件等) で、前年までの累積投資額の約 13%に匹敵する水準になります。その大半が経済特区と工業団地における投資であり、この背景には「投資インセンティブ」の存在があります。ハイテク産業の場合、通常 20%の法人税が、設立当初 4 年間免税、その後 9 年間で 5%、続く 2 年間で 10% (設立後 3 年間利益が無い場合、7 年間免税、9 年間減税) と 15~16 年の優遇措置が受けられます。

また、輸出加工を中心とする企業などは、港湾都市に進出することで物流コストの低減を図ることができます。例えば下記的前提条件で試算した場合、月額 7,500 米ドルのコストカットに繋がります。

《 (例) 物流コスト：ハイフォン港からの輸送費 》



(図) Google Earth Pro により筆者作成

□前提条件：月間 50 コンテナ、EPE 企業 (全量輸出)

コンテナ輸送料金		月間物量 (コンテナ換算)	
港湾地区内	50U SD	資材	30 TEU
ハイフォン⇄ハノイ	200U SD	製品	20 TEU

□物流コスト試算例

物流範囲	港湾地区内	ハノイ市街	月間差額
港⇒工場	1,500U SD	6,000U SD	4,500U SD
工場⇒港	1,000U SD	4,000U SD	3,000U SD
計	2,500U SD	10,000U SD	7,500U SD

※各数値は、ディープシー (DEEP C) 工業団地からの聴き取りに基づくもので、一例を記載

一方で筆者は、ハイフォン市の工業団地等の土地使用料や建物賃料が、ハノイ市近郊のローカル工業団地などに比べてやや割高なイメージを持っていましたが、ディープシー (DEEP C) 工業団地によれば、賃料価格 5.0~6.0 米ドル/㎡のレンタル工場 (500~5,400 ㎡) を随時造成しており、直ぐに入居企業が決められているとの情報もあります。また、同工業団地では、電力・水道・廃棄物処理等における新型施設の設置を進めているなど、中小企業にとっても進出しやすい環境が整いつつあると言えます。

人材確保の観点では、労働力人口 1,135 千人 (総人口比 56.8%/ベトナム統計総局 2017 年データ) とハノイ市 (同 51.6%) を上回っているものの、大手企業との競争の影響も加味する必要があります。

日本や中国から近距離に位置し、港湾-高速道路-空港の交通ネットワークを備えるハイフォン市は、企業の投資規模やビジネスモデルによっては、魅力的かつ有力な投資エリアになるものと考えます。

4. タイ:「民政移管への総選挙」

カシコン銀行 ジャパンデスク 吉田昌平

2014年5月の軍によるクーデター以降、長らく軍事政権が続いていたここタイでは、ついに民政移管に向けた総選挙が3月24日に行われることが決定しました。街中では各政党の選挙活動が本格化しており、連日メディアでも取り上げられるなど、日に日に注目度が高まっています。

■親軍政派に有利な選挙制度

<2017年憲法特別経過規定による国会の構成>

タイの国会は上院と下院から構成されます。今回公表されたのは下院の総選挙となりますが、上院議員の選出についても、昨年末より並行して進められています。転機は2017年に行われた憲法の改正であり、これにより議員選出ルールに大きな変更が加えられました。

国会 (750名)			
上院 (250名)			下院 (500名)
(194名)	(50名)	(6名)	
NCPOが選抜	各職業グループ毎の互選で候補を選出するが、最終的にはNCPOが選抜	国防事務次官などの軍関係者	3/24総選挙により選出

(出所) メディア情報をもとに筆者作成。カッコ内は定員数

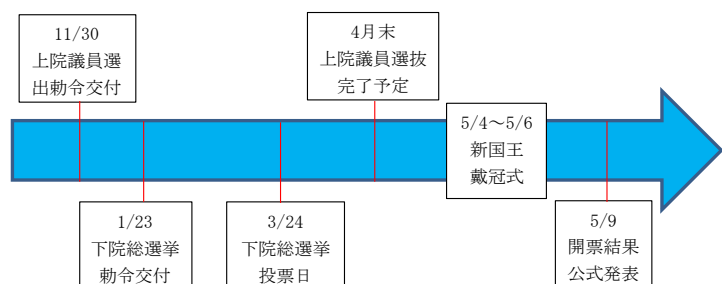
まず上院については「5年間の経過規定」として、250名ほぼ全議員を実質的には現軍政権(国家平和秩序維持評議会・通称 NCPO)が指名する仕組みへ変更されています。一方で下院は今回の総選挙で小選挙区比例代表併用制度の下、500名が選出されます。選挙後に新首相が指名されることとなりますが、上下院議員総数750名のうち、過半数の支持が得られれば首相へ指名される仕組みとなります。約3割を占める上院議員(250議席)は親軍政派で占められていることから、今回実施される総選挙では、126議席(下院定数500議席の約2~3割)を親軍政派政党が確保すれば、現首相であるプラユット氏の指名は確実となります。なお、プラユット氏は議員ではないものの、新憲法の規定により非議員の首相就任も可能とされたことから、親軍政派政党である「国民国家の力党」より既に首相候補として擁立されています。

このように、軍によるクーデターから約5年の間に軍部の影響力を残すための施策が着々と進められており、ランシット大学の行った事前調査によれば、政党としては「タイ貢献党(タクシン派)」がトップの支持を得ているものの、議席数に大きなアドバンテージがある親軍政派政党が国会を掌握することが予想されます。

■予想される今後の経済への影響

親軍政派の影響力が今後も続くこととなった場合は、現政権が掲げる各種経済政策が引き続き継続されることが予想されます。「タイランド4.0」を核とした、現在開発が進む「東部経済回廊(EEC)」への投資も加速することが

<上院・下院議員選出スケジュール>



(出所) メディア情報をもとに筆者が作成。上段が上院、下段が下院スケジュール。

予想され、経済成長の安定が期待されます。一方で、軍の影響力が強い政権が継続することで、タクシン派からの反発は免れないことから、政情面での不安は拭えない点には注意が必要です。選挙結果の公表は5月9日となるため、結果が判明するのはまだ先となります。我々外国人は結果を見守ることしかできませんが、今回の総選挙が今後のタイ経済、ひいては日系企業へ与える影響について、動向を注視していきたいと思えます。

5. インドネシア:「MRT開業へ」

バンクネガラインドネシア ジャパンデスク 中嶋幸人

3月に開業するインドネシア初の地下鉄（MRT：Mass Rapid Transit）についての現状を報告します。

■3月に開業の予定が・・・

MRTの開業は3月中を予定しているものの、駅工事が終わっておらず、本稿を執筆している3月18日現在、3月中に開業できるかは不透明な状況です。日本であれば、決められた開業日を基準に工事日程を組み立てていくものですが、開業予定月になっても開業日が決まらないというのは、何ともインドネシアらしい状況です。また、運賃もまだ政府の最終認可が下りていないようで、正式には決まっていない状況です。

インドネシアでは、4月17日に大統領選挙が控えているため、MRTをはじめとするインフラ整備の実績をアピールしたい現職ジョコ・ウィドド氏の指示により3月中の開業を目指しているとの見方もあります。

■日本規格の車両・設備

MRT工事は日本の円借款事業であることもあり、各種工事は日系企業が、車両・設備は、日本製品が使われ、運行管理、運転士の養成も日本が支援しています。3月初旬から、実際のダイヤに沿った試運転を開始しており、日本で見ると地下鉄にかなり近いものを感じます。先日、一般向けの試乗会も行われました。日中は10分ヘッドでの運行が予定されているようで、利便性も相応に確保されそうです。地下鉄はジャカルタ市内の繁華街にも駅があり、まもなく「終電の時間ですので、お先に失礼します」といった会話がジャカルタで見られるかもしれません。次号以降にて、開業したMRTに乗り、さらにレポートしたいと思います。



【駅の入口】



【券売機：キャッシュレスを前提にしているため台数は少ない】



【車両基地：線路やバラストも新しさが目立つ】



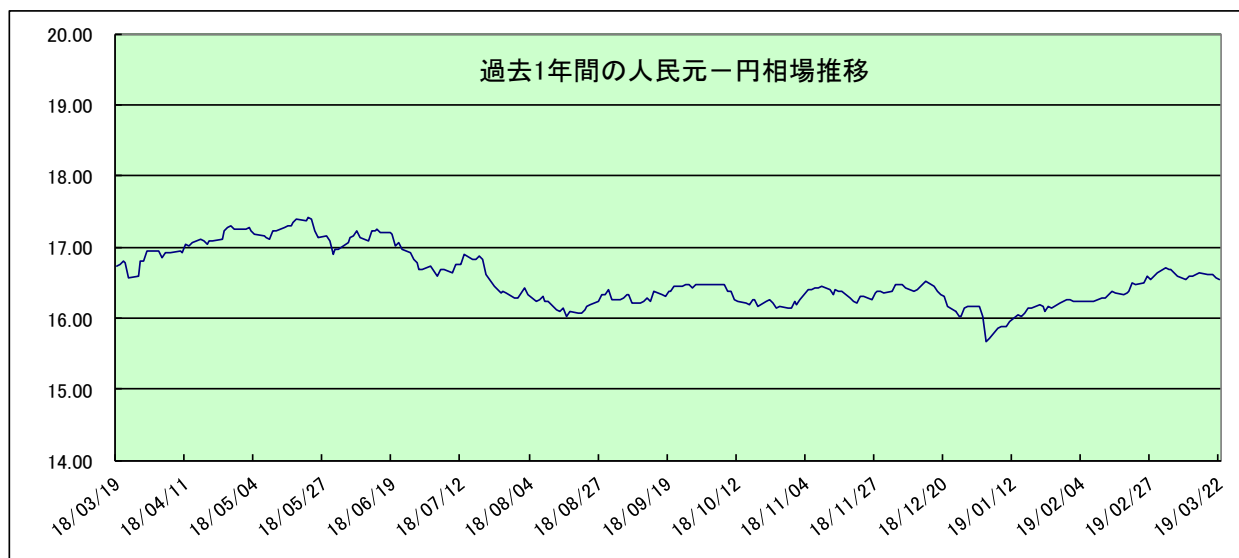
【改札と駅コンコース】

6. 為替相場情報

(1) 人民元一円為替相場(中国人民銀行公表仲値)

(単位:1人民元当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
2月25日	16.50328	2月26日	16.58622	2月27日	16.53658	2月28日	16.57797	3月1日	16.64060
3月4日	16.69700	3月5日	16.67973	3月6日	16.68586	3月7日	16.64253	3月8日	16.59393
3月11日	16.53111	3月12日	16.57880	3月13日	16.58402	3月14日	16.60109	3月15日	16.63368
3月18日	16.62179	3月19日	16.60164	3月20日	16.60164	3月21日	16.57001	3月22日	16.54835

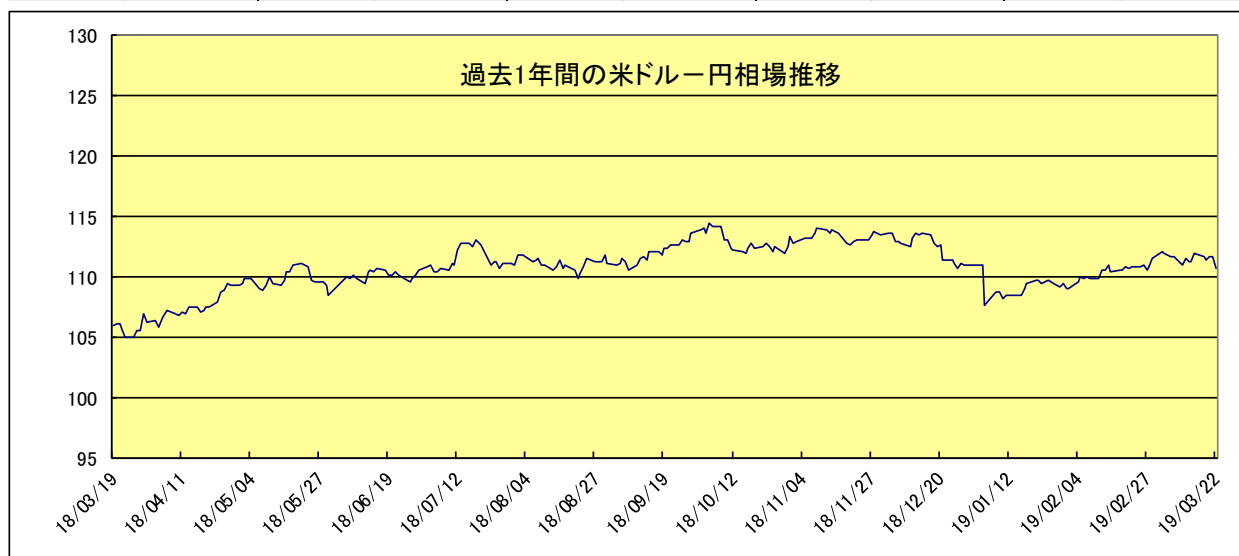


上記表、及びグラフはこの公表仲値を便宜的に1人民元当たりの日本円へ換算し直した相場です。
そのため、正式な人民元相場が必要な場合は、中国人民銀行にお問い合わせ下さい。

(2) ドルー円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

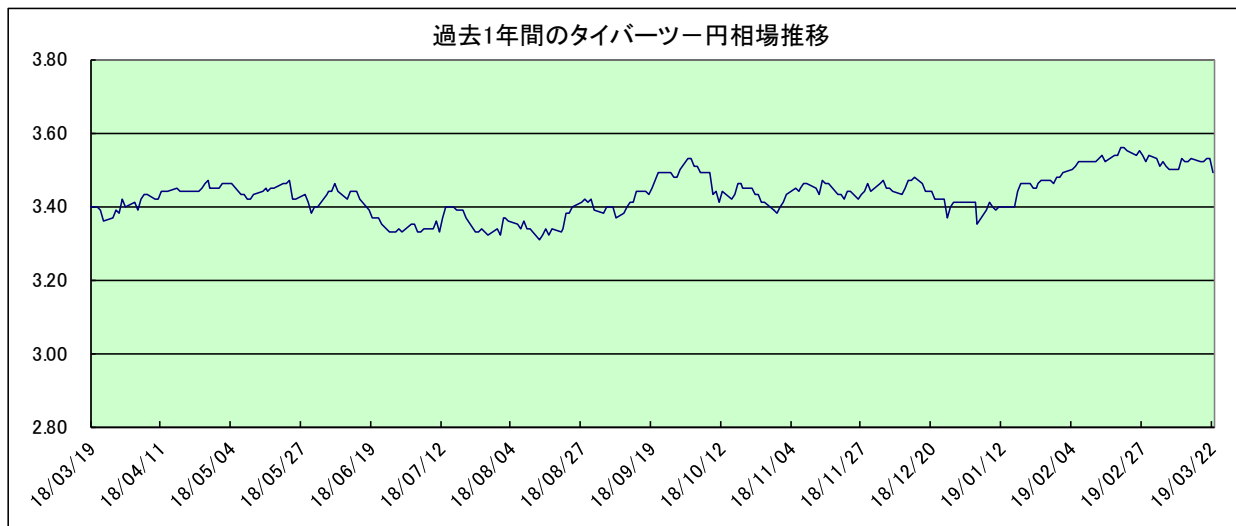
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
2月25日	110.78	2月26日	111.01	2月27日	110.59	2月28日	110.87	3月1日	111.54
3月4日	112.03	3月5日	111.91	3月6日	111.74	3月7日	111.67	3月8日	111.58
3月11日	110.95	3月12日	111.47	3月13日	111.29	3月14日	111.29	3月15日	111.94
3月18日	111.58	3月19日	111.33	3月20日	111.65	3月21日	-	3月22日	110.74



(3) タイバーツ-円為替相場(当行公表仲値)

(単位: 1バーツ当たりの日本円)

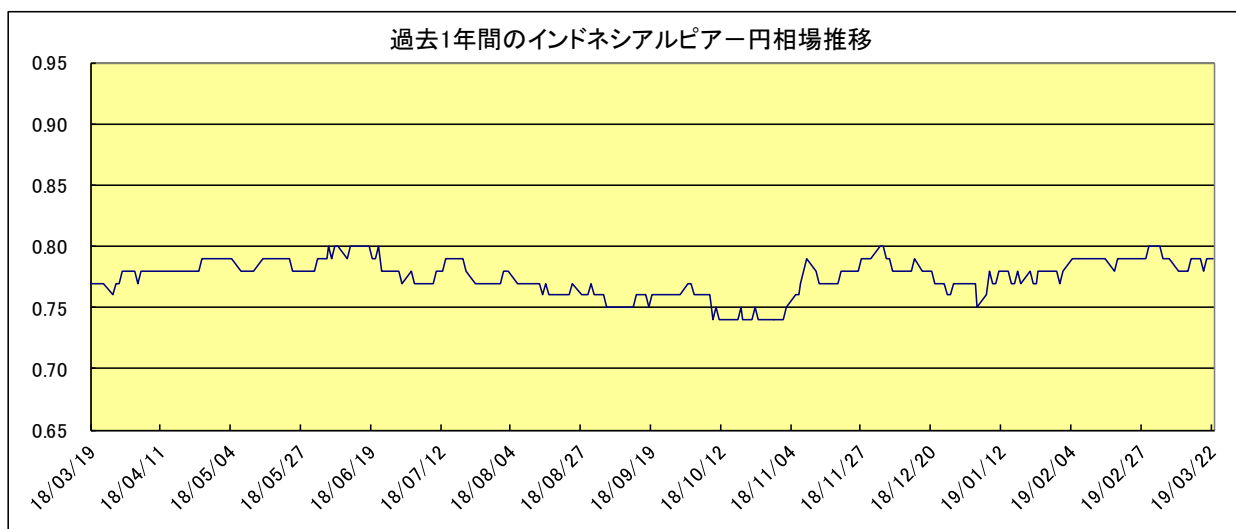
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
2月25日	3.5400	2月26日	3.5500	2月27日	3.5400	2月28日	3.5200	3月1日	3.5400
3月4日	3.5300	3月5日	3.5100	3月6日	3.5200	3月7日	3.5100	3月8日	3.5000
3月11日	3.5000	3月12日	3.5300	3月13日	3.5200	3月14日	3.5200	3月15日	3.5300
3月18日	3.5200	3月19日	3.5200	3月20日	3.5300	3月21日	-	3月22日	3.4900



(4) インドネシアルピア-円為替相場(参考値)

(単位: 100ルピア当たりの日本円)

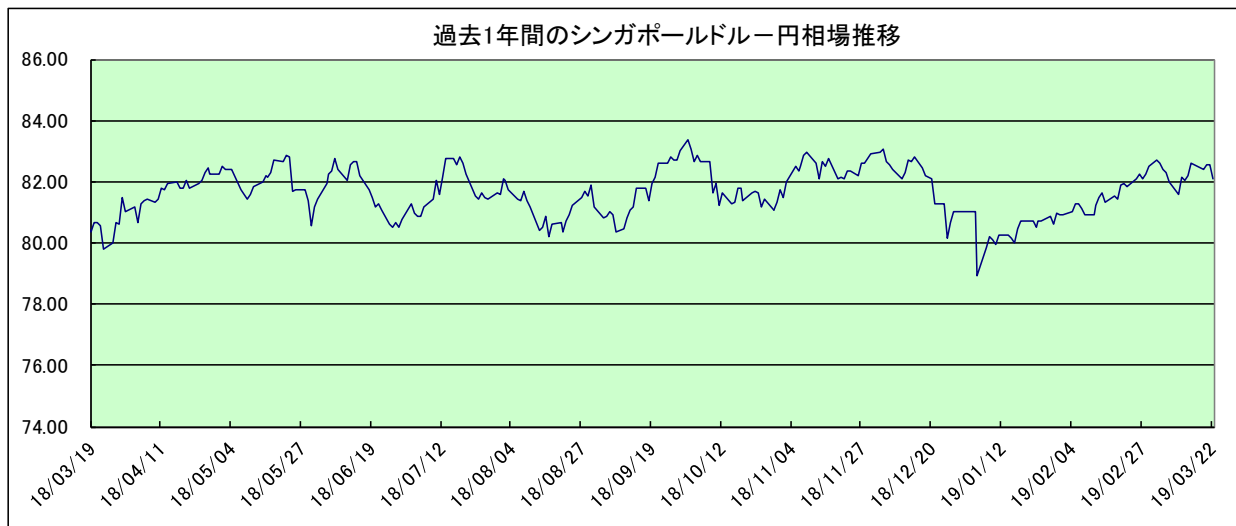
(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
2月25日	0.7900	2月26日	0.7900	2月27日	0.7900	2月28日	0.7900	3月1日	0.8000
3月4日	0.8000	3月5日	0.8000	3月6日	0.7900	3月7日	0.7900	3月8日	0.7900
3月11日	0.7800	3月12日	0.7800	3月13日	0.7800	3月14日	0.7800	3月15日	0.7900
3月18日	0.7900	3月19日	0.7800	3月20日	0.7900	3月21日	-	3月22日	0.7900



(5) シンガポールドル-円為替相場(当行公表仲値)

(単位:1ドル当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
2月25日	82.0900	2月26日	82.2700	2月27日	82.0800	2月28日	82.2700	3月1日	82.5000
3月4日	82.7300	3月5日	82.5800	3月6日	82.3900	3月7日	82.2900	3月8日	81.9800
3月11日	81.6000	3月12日	82.1500	3月13日	82.0400	3月14日	82.2200	3月15日	82.5800
3月18日	82.4500	3月19日	82.4100	3月20日	82.5700	3月21日	-	3月22日	82.1000



(6) ベトナムドン-円為替相場(参考値)

(単位:1000ドン当たりの日本円)

(月)		(火)		(水)		(木)		(金)	
2月25日	4.7700	2月26日	4.7800	2月27日	4.7600	2月28日	4.7700	3月1日	4.8000
3月4日	4.8200	3月5日	4.8200	3月6日	4.8100	3月7日	4.8100	3月8日	4.8000
3月11日	4.7800	3月12日	4.8000	3月13日	4.7900	3月14日	4.7900	3月15日	4.8200
3月18日	4.8000	3月19日	4.7900	3月20日	4.8000	3月21日	-	3月22日	4.7700

